

# 病害虫発生予報 第8号(11月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所  
TEL 0736(64)2300

## <予報の概要>

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病 つる枯細菌病 うどんこ病 ハダニ類 ウラナミシジミ	やや少 並 やや多 並	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや少 やや少 やや少
ダイコン ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病 アブラムシ類 コナガ ヨトウガ	並 並 やや少 やや少	カンキツ	果実腐敗病 ミカンハダニ	やや少 やや少
			果樹全般	カメムシ類	やや少

## 気象予報

1か月予報（予報期間10月24日～11月23日 大阪管区气象台）

<予想される向こう1か月の天候>

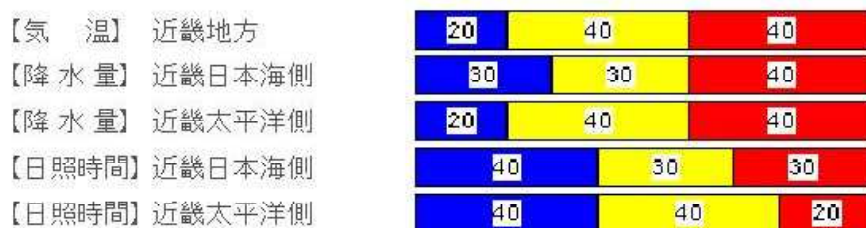
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるとでしょう。近畿日本海側では、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、期間の前半は平年と同様に晴れの日が多く、期間の後半は平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>



凡例:  低い(少ない)  平年並  高い(多い)

	月平均気温 (平年値) (°C)	月降水量 (平年値) (mm)
11月	和歌山 13.5	和歌山 90.5
	潮岬 15.3	潮岬 160.2

# I . 野菜・花き

## <エンドウ>

### 1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平成12%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 2. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平成2%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは発病抑制効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 3. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平成5%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

### 4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は60%（平成28%）、発生株率は26.0%（平成10.7%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬液が葉裏に十分かかるように散布する。

### 5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は47%（平成48%）、

発生株率は15.3%（平年13.3%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。

## <ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

### 1. 黒斑細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（ハクサイ：平年8%、キャベツ：過去6年の平均10%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 常発地では降雨前に薬剤を予防散布する。

### 2. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は10%（平年24%）、発生株率は0.5%（平年3.2%）、ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は30%（平年35%）、発生株率は4.5%（平年6.8%）であった。

② 黄色水盤（紀の川市）への10月1～20日の飛来数は、34頭（平年35頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬液が株元の葉裏にかかるようにていねいに散布する。

### 3. コナガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年5%）であった。

② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市65頭（過去4年の平均45頭）、紀の川市0頭（平年1頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、系統の異なる薬剤をローテーションで散布する。

### 4. ヨトウガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年11%）であった。

② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市10頭（平年4頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生初期の若齢期の防除に努める。

## <野菜・花き全般>

### 1. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率25%、発生株率3.5%）であった。
  - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市1頭（平年9頭）、御坊市37頭（平年21頭）、印南町6頭（平年35頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 中・老齢幼虫に対する防除効果は低いので、ふ化幼虫の集団が分散するまでの若齢幼虫期に防除するよう努める。
  - ② 薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。

## 2. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は5%（平年44%）、発生株率は1.5%（平年8.5%）であった。
  - ② 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は10%（平年30%）、発生株率0.5%（平年5.4%）であった。
  - ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市231頭（過去4年の平均1,474頭）、紀の川市366頭（平年687頭）、御坊市1,302頭（平年1,358頭）、印南町651頭（平年338頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① シロイチモジヨトウに準ずる。

## 3. オオタバコガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率45%、発生株率8.7%）であった。
  - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市13頭（平年25頭）、御坊市96頭（平年47頭）、印南町36頭（平年9頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 中・老齢幼虫に対する防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

# II. 果 樹

## <カンキツ>

### 1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生園率は18%（平年25%）であった。
  - ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
  - ② 果実はていねいに取り扱い、果面に傷をつけない。
  - ③ 収穫前の薬剤散布を励行する。

### 2. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生園率は6%（平年16%）、発生葉率は0.5%（平年4.4%）であった。
- ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。
  - ② 収穫時期まで袋かけを行なう品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

## < 果樹全般 >

### 1. カメムシ類

- (1) 予報内容      発生量    やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における10月中旬のカキの被害果率は「富有」で3.9%（平年10.9%）であった。
  - ② 紀の川市粉河の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ3頭（平年3.9頭）、ツヤアオカメムシ23頭（平年23.0頭）であった。
  - ③ 有田川町奥の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ0頭（前年4頭）、ツヤアオカメムシ4頭（前年54頭）であった。
  - ④ みなべ町東本庄の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ0頭（過去5年の平均40.8頭）、ツヤアオカメムシ30頭（同178.0頭）であった。
  - ⑤ 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 園内外のカメムシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。
  - ② 飛来がみられる園で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

**○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所コーナー>

[http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/  
boujyosyo-yosatsujoyouhou.html](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujoyouhou.html)

**○和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2300)までお願いします。